

2007.01.19 レンガ積みたい熱 上昇中

薪ストーブの蓄熱の為にレンガを積んでいるのを良く目にする。

ネットでそんなのを見ていると、そのレンガは建て主自らが積み上げました的な話も載っている。

“自分でも積み上げられそうだなあ”何となく思う。

“いやぜったい積める”根拠もなく確信。

“どうせ積むなら、薪ストーブの蓄熱レンガより本格的にペチカでも積み上げよう！！”

ただ興味本位で積み上げたくなくてきてしまっている。やはりムポナーな性分か家の梁を購入予定の有賀製材所というところは、製材だけでなく家の施工も行っていて、

何度か内覧会にも行った事がある。どの物件にもペチカが鎮座まましていた。

やたらでかい。(燃焼部分が前に張り出しているの、縦 100*横 200*高さ 180cm ぐらいある)

でも暖かそう、薪ストーブだけよりも 5 割り増しか(勝手な憶測)

有賀製材所では、左官屋の仕事になるらしい。

レンガ 1000~1100 個で構成されている。



Kさんに早速相談すると

“私(Kさん)もレンガ 1000 個ぐらい積んだことがある、やってやれない事はない”との返事。

さすが先輩、なんでもやってはりまん。糸を張ってやるみたいだ、簡単ではないだろうが、なんとかなるだろう。(もの凄く勝手な憶測)まだペチカに確定したわけではないが、検討中

また一つ家づくりのハードルをつくってしまった。(^_^;

2007.06.12 レンガ積むぞ！！

竹小舞いに引き続き今日はレンガ積み体験をしに、有賀製材所で施行中の物件を見学に行ってきた。

私と奥さんそれにKさんも同行していただいた。

Kさんはなぜかトラック一杯の断熱材を積んでいた。朝9時到着、有賀製材のTさんに案内していただく。

現場は上棟して、壁がついた状態であった。うーん新築の香り♥なんて言っている場合ではない。

2人の職人さんがペチカを積んでおられた。



手慣れた手つきで、バケツからモルタルをコテに載せ、レンガを積んでいく。

ハンマーでコツコツたたき“ハイー丁上がり”ってな感じでどんどん並べていく。

さすがプロいかにも簡単そうに見える。積んでいるペチカの横に一階天井から床に延びた手製で木製の定規を元に水平に糸をはり、それを目印にレンガを積んでいた。

モルタルの厚さはこれも手製で木製のジグを使って調整しながら、水平器見ながらの作業。

あの2種類のジグはいただき、心の中で叫ぶ

今回の施行物件は部屋の真ん中にあり、天井抜く形でペチカ積みが行えるので、一階床～一階天井と二階床～二階天井と個々に作業ができるのだが、私の家の場合、思いっきり吹き抜け部分にペチカがあり、煙突を屋根まで上げるのにかなり、難度高そうだし、耐震性もなさそうだし何らかの補強と作業性の面で何らかの足場が必要になりそう。

そんな話を奥さんにすると、“煙突部分は普通の薪ストーブの煙突でいいんじゃない”と、早くも弱音発言、“そんなの許さん”と私、自分で自分の首を絞めたかも。

KさんはKさんで“日本製のレンガは精度良くできていて、面白さにかける。外国製(とくに中東などの精度の悪そうな)レンガの方が味が出ていいんじゃないか”との強気発言。

今度はKさんが私の首を絞める。くっくっ苦しい。大丈夫かうちのペチカづくり。ハードル高し。屋からは大工工事をお願いする。K 建工さんを見学。

棟梁と初顔合わせ、初老の優しい人であった。頼んませ棟梁。刻みは始まったばかりのようで、土台になる材木が少しだけ刻まれていた。

枝付きのヒノキなどオールスター勢揃い、知らずに訪ねて来た人は何かと思うだろう。

伊那から来たカラマツだけで、10トントラック2台分、たぶん同量ぐらい岐阜からも来たはずで、トータル4台分。

ものすごい量

棟梁もある意味ビビったかもしれない、こんな無垢材の家づくりに慣れたはずのKさんも盛んに首を傾げ、“多すぎる”みたいな事を言っている。

誤発注

単なる誤発注だったにして

最後に建築現場まで行き、kさんの持って来た断熱材を二人で下ろす。

15日から始まる基礎工事で使う基礎断熱用のものであった。

Kさん何でもしますなあ、私も付いていきますよ。👷

2007.09.04 我が家の見せ場 火

我が家の見せ場は数々あれど、今日は火曜日まず火の話題から。火を使うところと言えば、台所と暖房になるのだろうけど、キッチンには夫婦共に特筆すべきこだわりはない。

(よくまあうちの奥さんはシステムキッチンや食洗機を欲しがらないとある意味感心する)

今のアパートの台所よりも広がって、

それなりにきれいにこなればいかなぐらいいしか思っていない。(ハードル低し)見所はなんと言ってもペチカ。

ペチカを素人が積もうなんて言うのは十分にアドベンチャーな事だと思うのだ。そもそもは梁の購入先として有賀製材所さんとの繋がりがなければ、有賀さんの施工物件にあったペチカの現物を見ることもなく、

ましてや作ろうなどとは思もしなかったはず、縁とはこうゆうものなのか。



兎も角うまく積むことを考えなければいけない。

横幅 2070×奥行き 425(+焚き口 600)×高さ 1810mm の巨大な物体を、レンガ約 1000 個で積む計画だ。目地が 10mm で 26 段積み上げて行くことになる。一段一段レンガの配置図面を書かないと、中の煙道がちゃんと通るか著しく不安。多少の歪みはご愛敬か。冬の間の内職になりそうだ

2007.11.18 やっぱり凄かった！！

土曜日はペチカ見学&クリジャー邸訪問と盛りだくさんの日であった。まずペチカ積む予定のレンガも到着して、来週の 23 日ぐらいからでも積み出す予定でいるのだが、積み方・構造がわからない部分があり、確認のための見学であった。

10 時前に伊那市の現地に到着

裏口から“ソーツ”進入！！

(当然事前にこの施工をした有賀製作所さんと建て主に事前に了解済み)工事は休みに静まりかえった現場であった。



ペチカ殿がドドーンとお出迎え。

こちらの現場には積んでいる途中にも一度見学させてもらっている。誰もいないので舐め回すように詳細確認。基本は長手積みで長手を半分ずつづらして積んでいくのだが、煙道をぐるっとペチカ全体に回す関係上、短手が並ぶ所があり、その部分が北村さんも積み方が分からなかったらしい。



モルタルの目地の寸法も見たが、9~12mm で合わせながら積んで行っているようだ。

その辺は左官仕事、**何となく上手く**納まれば良いのだろう。

(この何となく上手くが素人に出来るかどうかはまた別問題だが・・・)



天面の仕舞の為に、上から2段目がくびれた形に積んであることも、初めて知った。
たいふ感じは掴めてきたゾ。あとは出たとこ勝負かな。

写真をバシャバシャ撮っている所で、ここの施主さんが来られ、暫く立ち話。



こんなロケーションだもんな、羨ましい限りだ
(風は強そうだが)

そうこうしているうちに 11 時半、午後からは松本のクリジャー邸を訪問だ。



1 時過ぎにクリジャー邸に到着
屋根がかけられ、土壁が一部つけられた状態であった。

中に入ると神聖な良い雰囲気。やっぱり木の家はいい。
たぶん建坪は我が家の 2/3 程度だと思うのだが、結構ひろびろ感じられた。

クリジャー邸はボルトを使わない伝統構法



差し口が重なる部分は大渋滞。
でもこの込み具合がめっちゃくちゃ格好がいいのだ。
追っかけ大柱継ぎ

ピタッ——とくっついてた。ワンダホー！！ブラボー！！な技である。

(残念ながら我が家では追っかけ大栓継ぎは全く採用されていない orz

1カ所ぐらい頼み込めば良かったかな)げんぞーさんや北村さんも凄い凄いとは言っていたが、

やっぱり凄い建物であった。お手伝いという事で、(得意な所で??)竹編みをしてきた。

3時までだったので、一面を仕上げきれずに終わってしまった。微力でした (^_^;クリジャー邸には技術・品格では劣りそうなので、

うちは巨大さ・奇抜さで勝負だ！！

2007.11.19 レンガたち

ペチカに使われるレンガが現場に到着



赤いのが焼過レンガで本体用

白いのが耐熱レンガこちらは焚き口に積まれる用だ。

トータル数量 650 個、煙突部分はレンガで積むかどうか未定なので、ここには入っていないと思う。

耐火レンガは水分厳禁なようで、屋内に搬入。

ま、これが重い、重い

5つ毎に束ねてあるのだが、5つで推定 15kg?

両手に2束持つとふらついて新築中の家を破壊しそうに何度もなった。

金属部品も同時に納入



本体天面に取り付けられる掃除口

なかなかの名文句！！

2007.11.22 ギリギリ・パツンパツン

ペチカ積みを金曜日から積みだそうと予定している。

果たして上手く行くかどうか、出たとこ勝負な部分も大きい。
夕方感じをつかむためにレンガを仮置きしてみる。



レンガの基礎に対してギリギリじゃないかあ——基礎の縦幅は 425mm、レンガの長手が 208mm、短手が 100mm
基礎にぴったり納めるとすると目地幅は 7~9mm と言うことか。

あんまりぴったりなので、狂いようが無いと言えばそうとも言えるので、
積みやすかったりもするのかな??

2007.12.02 ハッハッハ 君の動きは見きったぞペチカ君

土曜日も朝から現場作業

私の他は大工さんは M 棟梁一人であった。まず突き出し窓の塗装から始める
2 階の 2 カ所は突き出し窓で金具で固定済みなので、庇の上に乗って
外部から塗装シャーシャシャのシャーと柿渋塗り
ま、えー感じかな。レディース&ジェントルマン&ボーイズ&ガールズ
さあ次は本日のメインイベント、ペチカ積みの開始である。先週も仕事終わりで夕方に現場に行ってはペチカの準備をして
いた。

毎日、少しでも積めればとは思っていたのだが、
一つ積むにもモルタル練りが必要で、当然終わった後の道具洗いも必要となれば、
夕方~夜にかけての仕事じゃないよなあと思い、
定規の微調整やレンガ運びにいそしんでいた。やるぞ——とテンションが上がった所で M 棟梁が一言
“下の養生をやり直したんで、定規動かしたでね”

ガ————ん

震度 2 程度の微妙な揺れが脳を揺さぶる

“上の所は前の位置を墨付けして動かしてないんで、下を調整してから使ってネ”

細かいお心づかいありがとうございます。

出来れば全部動かしては欲しくなかったです。orz それからは松田さんよりお借りしたレーザーの墨出し機を使って、
位置決めをこころ見る。あれがこうで、これがああで、こことここを合わせて、
これでどうだ——…、やっぱりダメか自分でも何をやっているのかがよく分からなくなる。

スイヘイって何?

スイチョコクって何?

ワタシは誰で?

ナニヲシテイルノ?? 機械自体はアナログなのに少しの揺れ自動停止。

私っていったい…。ごによごによしている内に昼時に。

ペチカを積む一番前と後ろに糸を張ろうとして悪戦苦闘しているのだが、
ペチカ本体から見て定規前面はこのライン上は位置決めできた。

定規自体が完全に垂直でなかったとしても、

レーザーで水平に墨打ちすれば、事足りるではないか(俺って天才??) と思い立つ。屋からはいざレンガ積み——

とその前に両サイドに掃除口のごつい鋳物を付けないといけな、

これも当然初めての作業、モルタルを四方八方押し込んでいく。次にレンガ 4 段目を開始

あれこれ考えてもしょうがないので、どんどんと積んでいく。

どんどん、どんどん積んでいくとだんだん要領がつかめてくる。

一つ一つ入念に位置決めしていくよりは、4 つぐらいを一気ダダッと並べてしまって、少しモルタルが堅くなってきたかなと
言う時を見計らってから、最終的な位置決めをしていった方が上手くいくような気がしてくる。

実際、ダダダッと並べて、ゴムハンマーでコツコツやって、
目地ゴテでシャシャシャ——と最後にブラシで掃除すれば何となく様になってくる。
やっぱり俺は天才だ——！！と思いたい



4.5 段で本日は終了、今日はやったゾ感があつたゾ。

2007.12.04 セルフビルドは突然に

ペチカのレンガ積みにはレンガを半分に切断して積む箇所が何カ所かある。
切断する道具はディスクグラインダーで切っていた。何カ所あるかを先に計算して準備しておくなんて事は全くない。
だいたい何個か切つて後は出た所勝負なのである。ペチカ初会合の時に松田さんに
“何個切つておけばいいですかね？”と聞かれた時
“まあ、3つぐらい切つてもらえばいいですかねえ〜”と咄嗟に答えていて、
松田さんの方でサンダーで3つを6個に切断してしてくれた。その後は一人での作業になり、調子よく6段目を積んでいた
日曜日、
半切りレンガが足りない事に気づく。幸いディスクグラインダーは無料貸し出し中。
しばし思案する。
“ここは一人でやるってもんよ！！”
“でもグラインダーの使い方もよく分からないなあ”
“本屋にでもいってDIY 入門書でも立ち読みしようかなあ”
“何とかなるだろう、行ってしまえ——”と最後は強行派が押し切る。レンガに墨を付け切断開始。
“スイッチ何処??”
既に立ち往生、それらしいボタン状の物を押してみるが全部ボタンではなかった。
一番尾っぽの所に“ON”と可愛く書いてある。
“何じゃこれじゃないか”スイッチ探しに約1分。
“本当に切れるのかな”疑心暗鬼のまま刃をレンガにあててみると。
【ギューィ————ん】と金属音と共にレンガの細かい破片を吹き飛ばしながら、
レンガが切断されていく。
“結構切れるもんだなあ”改めて感心。
4つ切断してグラインダーは終了した。モルタルの【モ】の字も知らなかった人間がモルタルを練り、レンガを積む。
ディスクグラインダーの使い方も知らなかった人間が一人でレンガを切断。ラブストーリーも突然始まるようだが、セルフビルドも突然なのだ！！



2007.12.09 耐火モルタル奮戦記

金曜日は会社をずる休みしてペチカ作業。ペチカは炊きだし炉から出た煙がペチカ本体をぐるっと一周して煙突から排出される仕組みになっている。

10段目が上下を分離するための区切りとなる。

ここで下段を封をしてしまうと、たぶん解体まで一度も開けられる事はないだろう。

そのうえ炉から出た熱風が一番最初に当たる部分なので耐火要素も必要となる。朝から作業を行って、8、9段目と終了する。

ちょうど2時頃に松田さんが北村さんとの打ち合わせに現場に到着。打ち合わせした後、ペチカの話になる。

基本的に炉の部分については耐火レンガ+耐火モルタルで積み上げ、

本体部分については普通レンガ+(通常の)モルタルで良いと思っていたが、

“熱が当たる下段の部分は内側の目地だけでも耐火モルタルで目地詰めした方がベターでないか”と

松田さんが提案。まあ一生開かないなら安全を見て耐火モルタルで目地詰めしても良いかなと思い、

早速目地詰め開始。

正直言うと今までは目地を出来るだけ普通モルタルで詰めるように作業はしていたが、

最悪焚いてみて煙が漏れたら後で詰めれば良いかなと超安易に考えていた。松田さんが持参してくれた、生クリームをデコレーションするときを使うような、

絞り袋と同じ機能のモルタル絞り袋使ってみる。

“ふんだんに盛っても少ないよりは良いでしょう”と言う松田さんの言葉に押されて、

耐火モルタルをてんこ盛り。途中で押し出そうと思いきり力を入れると持ち手辺りのあらぬ所から、

あらぬものが吹き出してくる。

耐火モルタルが堅すぎたようで便秘気味に破裂した。orz それから先っぽから出てくる量よりも、漏れてくる量の方が多く、

それを指で取って擦りつける。女だらけの水泳大会は色っぽくて良いのだが、

耐火モルタルだらけの目地詰め大会はただただグチャグチャ状態になっちゃった。



そのグチャグチャ状態も松田さんがスポンジを使って修正。そんな事もあり、10段までは行きたいと思っていたが今日は9段まで

松田さんも打ち合わせだけで帰るつもりだったようで、

丁度封印する日に行き会ったのも、これも何かの必然かな。

2007.12.10 ちやくちやく進行中

ペチカ作業も着々と進行中。

10段目にて炉から出てきた煙を一旦遮断、横に流れるようにする。



その上は煙がペチカ全体に廻るように道をつくる。日曜日は、朝から目一杯積もうと目論んでいた。4~5段はいけるだろうと思っていた。相変わらずモルタルの水加減は何とも難しいのだが、それでもそれなりのものを作れるようにはなってきた。最初にモルタルの粉 25kg を 5 袋ホームセンターで調達してきたのだが、それも今日でほぼなくなる。こんなに練ってそして塗ったんだ。私の作業中、子供たちはスロープで遊んだり、外で遊んだり。なんだかんだと過ごしている。夕方 5 時頃、最後に目地をきれいに作業中。如何にも興味津々のつぶらな瞳 4 つと目が合う。基本的にはパパが作業中はあまり側に寄らないようにってはいるのだが、今日の作業ももう終わり、“少し手伝っても良いよ”と声をかける。



少量のモルタルを目地に詰め込む軽作業。
なんか必死にやっている二人。
そんなこんなで作業終了。



金曜日～日曜日で 2+2+4 段積み上げる。
合計で 15 段終了。
完成まであと 11 段、たいぶ先が見えてきたゾ！！

2007.12.18 ダンパー設置

昨日は朝寝坊して更新出来なかったな。(T_T)
日曜日のペチカ作業で 4 段終了。
作業のヤマ場は 17~18 段の間に設置されるダンパーであった。



ここまで積んでみて

“どうやってダンパーの上のレンガを積みばいいのだろう”としばし悩む。

“どう考えても、横だけで繋ぐしかないよなあ”やっぱりこれしか無い。横をモルタルで着けて、暫く放置→上に積まれたレンガを押さえながらダンパーの抜き差し、これをモルタルの固まり具合を見ながら3、4回繰り返す。こんな感じに仕上がった。



このまま固まってダンパーが一生抜けないんじゃないかと言う懸念もあったが、翌日には何とか抜けてくれた。(^^)全部で19段目まで終了。



子供たちの身長もオーバーしてきたぞ。

あと7段クリスマスまでには本体は完成出来そうだな。

焚き口もあるのでそこまで行きたいなあ。ペチカが無いとサンタも入って来られないなあ。

2007.12.23 頂上まであと少し

10時頃から肅々とレンガ積み

積み方も、ここまで積んでくると身に付くもので混乱も無く積める。

全部が水平・直角に【ピタッと】積めている訳ではないが、

何となく、それなりに見られる形に治まる。不思議なものだ。



24 段終了なり。

最後の 25、26 段の仕舞い方が結構難しい。

天頂部分に積まないといけないし、レンガでは無く掃除口も付けないといけない。

有賀製作所の製作ペチカのとっぺん



25 段目をどれだけくびれさせて積まないといけないのか？

最後はどんな厚さ、どんな間隔で【渡し棒】をかければ良いのか？そんなことを、考えていたら結構悶々として寝られなかった。(^_^; 何とか閉めてみたいと思います。

2007.12.24 本体完成！！そして・・・

朝起きると妙に外が明るかった。



この辺では初雪かな。5センチ程度なのですぐとけちゃうでしょうが。大工さんは今日明日(23、24日)と連休になるので私一人の作業。

ラジオを聞きながらのまったり、ゆっくり作業なのだ。

25 段目突入

26 段で終わり。天面を上手く納める為に少し内側にくびれさせて積むはわかっているのだが、何ミリ内側に入れば良いのが良くわからない。まあ 30 ミリってもんかと独自判断、即実行



そのまま積むと内側に傾いて行くので、【渡し棒】をかましている。

もちろんこれもアドリブそしていよいよ最終決戦の 26 段目まず、外側に倒れ込まないように、今度は縦に【つかえ棒】をして、さらに内側に【渡し棒】を入れレンガを固定



その間にモルタルをたっぷり付けまくった天面の掃除口をはめ込む。



【つかえ棒】や【渡し棒】を使って微妙な高さを揃えたり、モルタルを狭い所に押し込んだり、レンガの水平を見たり、掃除口が下に落ちないようにさらに板片をかましたりと今までのペチカ積み作業の最終試験のような実力が試された26段目であった。掃除口にはこんもりと下向きにモルタルを付けないとイケなかったので、明日になったら、あらぬ所にあらぬ穴がなんて事にならないでね。ヤッホッー！！ 26段終了。



良かった良かったと最終チェック。……

Oh my great mistake!!

下の掃除口の扉の付け方が**逆**じゃないか 正しくはこっち↓、蝶番が右。



思いっきり蝶番左様に自主変更してしまっていた(2カ所) orz



これじゃダメダメだ。

扉を開くと扉自体が落下する。

上・下と書いててくれれば良かったのに——。

そんなこと自分で考えろってか。

“我が家のペチカには扉自動落下装置が特別装備されています。”なんて
宣伝文句にも何にもならない。

それでもそんなに開け閉めの頻繁な扉でも無いだろうし、

蝶番部分を針金で巻き付ければ、自動落下装置も解除できるかな。と早くも立ち直り。

今日をもって、ペチカ本体・モルタル入門編を終了、

次は焚き口・耐火モルタル中級編に続きます…

2007.12.25 ピーナッツバター男

ペチカ作業も終盤戦

本体の次は焚き口の作製。

使用するのは、耐火レンガに耐火モルタル

まず、耐火モルタルを練ってみる。

本体の時は、セメント+砂+糊+水だったが、

今回松田さんが調達してくれたのは耐火モルタルなので、耐火モルタル+水の調整だけ。

結構簡単。

ハンディー攪拌機を使って練られた耐火モルタルの質感は、

正しく【ピーナッツバター】のそれであった。

色・しっとり感(あるいはねっとり感)それと耐火モルタルに残る小さな粒々これがピーナッツかと思わせる仕上がりが。

結構味も美味しいかもしれない。(^_^)

その耐火モルタルを下に敷き詰めて、耐火レンガがまず一段目。

耐火レンガ君は、これはこれで端正なお顔立ち。

本体を積んでいた普通(焼過)レンガは、2、3ミリの精度誤差当たり前(私の作業の精度誤差はもっとあるが…)の世界で

あったが、耐火レンガは隅々まで【ピタッ】と完璧な装い。

さすが 1 個 620 円、ものがちがうぜ。

普通レンガ君が、地方競馬で走っているアラブ系のサラブレッドとするならば、

耐火レンガ君は、正真正銘、東京競馬場を疾走するサラブレッド。

ちょっと格が違うのである。

ピーナッツバターを塗りたくり、その上にサラブレッドを載せる・・・じゃなくて、

耐火モルタルを敷き詰め、耐火レンガをその上に配置。

置くときも今までは、普通レンガは水を刷毛で塗りながらやっていたが、

耐火レンガは基本的に水厳禁らしくその作業も無いのだ。

サクサクさくっと積める。



べっちょりとピーナッツバターを塗りたくったのでこの状態。

後日余分な所を掻き落とせば、乾燥して白っぽくなるだろうからほとんど目立たなくなるはずだ。

ただこの焚き口の難儀な所は、カット部分が多い所。

右側には薪を入れる鋳物の扉、正面には炎が見えるように耐火ガラス、

奥には本体との接続口とそれぞれの形状に合わせてレンガをカットしなければいけない。

どうもそちらに時間がかかりそうだ。

耐火モルタルは、なかなか硬化しないので【ガスバーナー】で焼きながら作業しないといけないなんて話もあったが、全然そんなことは無い。

自然と耐火モルタルから水が引いて硬くなる。

乾燥しすぎるとパンに塗ったまま 1 日経過した乾燥ピーナッツバター風にはなるのだが、

それまでに作業すれば作業性も良好良好。

一斗缶にピーナッツバター風の物をごっそり持った私を知らない人が見たら、

“あの人よっぽどピーナッツバター好きなのね”と思われるかもしれないなあ。(^_ ^)

2007.12.30 バニラの香りに誘われて



奥さん&Oさんの竹小舞編みも最終盤

一番最後に残された、頭頂部の三角、貫なしの難所に挑んでいる。

Oさんの協力無しでは竹小舞の完成はあり得ませんでした、ありがとうございました。

一方私はベチカ作業

焚き口の中盤。前回書いたようにレンガを積むこと自体はたいした事ないのだが、

レンガをカットするのに結構時間を食われる。

最初はグラインダーで四方に出来るだけ深く溝を掘り、次にレンガ同士をぶつけて割るといふ風にやっていたのだが、これだと削る量が多く時間もかかり粉もどえらく舞い散る。(T_T)

レンガタガネを購入して、グラインダーで軽く(5mm程度)溝つけた後、

レンガタガネで叩く方法に変更

なかなか【ビシッ】と綺麗には割れないが、それでもそこそこ上手くいく。

レンガタガネを金鋸で叩きまくる訳だが、タガネの場所を少しずつ変えつつ、強弱をつけながらジワジワと割っていくのがコツのようだ。

前面のガラスがはめ込まれる所に溝をつけるのにも一苦労。



ガラスを何度も上から仮はめして進めていく。

“鑄物の扉も入るかどうかだけ確認しておくかな”軽い気持ちではめてみようとする...

“えっ、入らないじゃん”しばし呆然。

差し金で長さを測ってみると扉の内法が 380mm

焚き口の奥行きは 600mm, 前後のレンガで 230mm

どう考えたって 360mm ぐらいが設計上の寸法だと思うのだが、

現物 380mm あるのだ。

“こうゆうのやめてもらえませんか”心の中でひとりごちる。

改善策を色々考えてみたが、どう考えても積み直すしかないのだ。

一つずつ耐火レンガを剥がしていく。

手だけでは無理でも軽くハンマーで叩くと意外に【サクッ】と取れる。

この期に及んで耐火モルタルの特性を理解する。

“(熱硬性の)耐火モルタルは熱を加えないと固まらない”という事を。

つまり、まだ熱を加えていないのでいくらでも取ることができる。

それは今日積んだ物だけに限らず、先週積んだ物についても同様。

ハンマーでコツンではずれるのだ。

ピーナッツバターは一週間経っても、乾燥したピーナッツバターで

決して固まってはいなかったのだ。

恐るべし耐火モルタル、まだまだ君の事を誤解していたよ。

結果的には固まっていないが故に、やり直しが効いた。

いったん、扉側の二段目まで剥がして再作業。

通気口も本来二段目につくところ、三段目につけようとしていて、それも修正。

扉の寸法がでかい分についてはレンガを角をカットすることにした。

前にも増してレンガをカットする場面が増える。

レンガをカットしている最中に、ほのかな甘い香りを感じる。

グラインダーの作業に必死で今まで気づかなかったが、

耐火レンガの粉に香りがする。

私だけかもしれないが【バニラエッセンス】風を感じた。

甘美で結構好きな香りだ。

扉やガラスを現物合わせし、レンガをカットそして積みと復旧作業に追われた。

甘い香りを漂わせながら、ペチカ作業は進んでいくのだ。

2008.01.07 ペチカ完成

ペチカ作製も最終コーナーを周り最後の直線

前回書いたように、普通の大きさでは扉が治まらないので角をカット



扉の四段目までの角を削って仮置きしてみると、
扉の上部についた出っ張りとガッチンコ



縦を切り、角をカット、さらに横に切れ込みを入れる

“わしは石の造形作家か？”と自らつつこみをいれなくなった。こうなれば何でも有りだ、現物に合わせてただただカットあるのみ



やっとはまった。(^_^)

どうも扉部分だけでなく、正面のガラスも寸法がだいぶでかく思われる。

今まで見たペチカは、こんなにでかいガラス面では無かったはず。

またやられたかな。

こちらも現物あわせの出た所勝負で何とか乗り切った。



そして九段目を少し内にくびれさせて、鉄板を載せる事になっている。
これは北村さんオリジナル仕様。
開け閉め出来て、掃除もしやすくとの配慮である。
まあこの鉄板が重い重い、15kgぐらいあるんじゃないか。
上げ下げしているだけで腰が痛かった。



そして、鉄板の周りを囲むように 10 段目を積んで、**完成**

ほぼ一ヶ月半のペチカ作製であった。
煙突付けは 8 日からの予定、ちゃんと焚けるかな??

2008.01.13 ペチカ完璧??

早速煙がモクモクと言われるペチカの修正を行う。

証言①

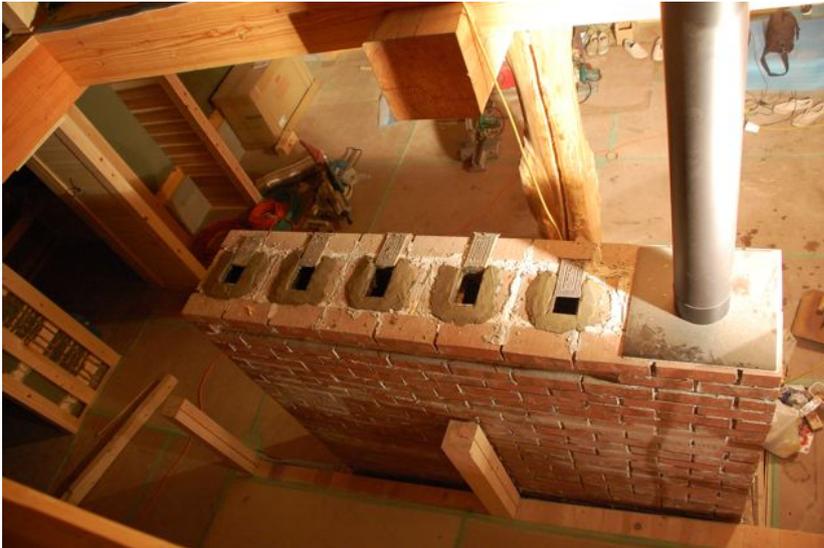
“天面の掃除口から煙が洩れる”

セメントを練ってモルタルにして掃除口に塗る。

最初はコテを使って塗ろうとしたのだが、掃除口が狭くて色々考えている内に、下に【ボトツ】
それからはコテを諦めモルタルを手にとって掃除口の下から上になすり付けるように、
擦りつける。

【これでもかこれでもか】と言うぐらいこんもり大盛りにつけてやった。

天面部分も最初よりは広範囲にモルタルを塗ってみる。



証言②

“焚き口の鉄板から煙が出るよ”

元々耐火レンガの上に鉄板を直置きしただけなので、当然煙が洩れることは予想された。

急遽【ガスケット】なる耐火性のロープをストーブ屋さんから送ってもらい、設置。

設置と言っても、薄く耐火モルタルを敷いた上にガスケットを 1.5 週ぐるっと鉄板の端っこ部分に回しただけだ。



他にも、何カ所かレンガの目地部分から煙が出ていたとか、
天地逆に付けてしまった横の掃除口からも煙が出ていたとかの証言はあったが、
取りあえず焚いてみて様子を見ることにした。

着火スタート！！

最初の 30 秒～1 分ぐらい、天面の掃除口からうっすらと煙が出てくる、

それでもそれ以降は全く出てこない。

手術成功か？

どうも一番最初の煙突までの煙の抜け道が出来るまでの間、

彷徨える煙君たちが行き場を見失い、洩れたようだ。

それからは安定稼働になった時はもちろん、鎮火の時も煙は洩れなかった。

丁度その時北村さんから電話 ☎

“ペチカの煙どうですかね？？”

“最初だけちょこっと洩れますが、それ以降は全然大丈夫ですよ！”

“....”

北村さんとしては、最初のちょこっとまで洩れないようにしたいと思っていた様子だが、
建て主(私)は意に介していない様子。

こんなゆるい建て主は私だけ？？

2008.01.23 目地作業

ペチカは一応表側だけそれなりに掃除、
横と裏側はまあいいやという感じでほとんど掃除していない。
それでもペチカ最後のお化粧、目地作業に突入。
失敗覚悟でまずは側面から作業。
砂漆喰を塗り込める作戦だ。
砂と漆喰の分量がよく分からないが、困った時は 1/3、2/3 で混ぜるようにしている。
(経験則 (^_^;)
今回の主役は漆喰なので漆喰 2/3、砂 1/3、
灰色っぽい砂が多い感じがしたので漆喰を少し増量。
最初に以前使った事のある、ケーキのホイップを絞り出すとき使うような道具に、
砂漆喰を注入。
10mm 程度の太さにも出るように水で薄めていった。
いざやってみると、【ムニュ】と出るには出るのだが柔らか過ぎて、
垂れてきてしまう。硬すぎると出ないし。
作戦失敗。
次に残された方法はコテで塗りつけるしか思い浮かばない。
少し硬めの砂漆喰を手板の上で【ネリネリ】
コテ先にとり目地に擦り込む。
一回では上手い出来ないが、ペチカを焚きながらの作業なので暫くすると硬化開始。
少し固まった所で目地ゴテでならずとそれなりの出来た。
作戦成功！！
あとははみ出した砂漆喰を布で【ゴシゴシ】
最後にサンポールでレンガの表面を拭き取ると



こんなもんだらう。
北村さんにこんな感じで仕上げますよと言うと、
“デメジって言うのもあるよ”とおっしゃる。
やり方は“知らない”らしい。
デメジってなんだ？
デデジ(地デジ)なら知っているぞ。
ネットで調べたらデメジ＝出目地の事であった。
それはデメジをやれってことですか？？
北村さんの命令には逆らえまい。

2008.02.11 デメジ初め

暫く記事にはしていなかったが、ペチカのデメジも進行中。
まずもって最初はやり方がわからなかった。
上からスタート。
養生も行わないで唯々塗りたくる。
イメージとしては、マッターホルンのように思い切り前に突き出す感じで。
ペチカを焚きながらの作業なので、丁度いい感じで砂漆喰が固まってくる。

目地を詰めてその上からおかわり。



我ながら雑なやり方だなあと思ってはいたが、他に方法が思い浮かばなかった。

兎に角上塗りに上塗りを重ね、後で削る。そしてサンポール！

これしかないなと思っていた。

当然何十センチも塗れるわけは無く、せいぜい2、3センチのものか、

付けすぎると垂れてくるし、少なすぎるとマッター化しないし、

強く押しつけ過ぎると潰れるし、弱過ぎると落ちるし、微妙な感じ。

途中からは半ばヤケ気味？にどンドン塗りたくる。



子供が生クリームを塗りたくったぐらいの適当ぐあい。

正にカオス

ここから道は拓けるのか？！

視界不良でも前に進め！！

2008.02.13 デメジ試行錯誤

我ながら【テキトー】だなあと思いながらも塗りっ放し作戦で進捗。

“この感じ結構ええのお”思わぬ援護射撃。

大工のツッキー(この時はまだ大作業中であった)と板金屋のじいちゃんからお褒めの言葉。

“プロには出せん、勢いがあるのお”

そう、その通り。

あやとも一世代の代表作なのです。

この言葉に押されて、ペチカ半分ぐらいまでをやり終える。

しかし、苦言を呈する常識人が一人。

様子を見に来た松田さんであった。

“こんな風にやっているとは思わなかったなあ”(常識外れ？)

“私ならテープで養生してやりますよ”

“1回ではここまで高く塗ると強度が落ちるので、一旦普通の目地にしてから、

その後盛っていった方がいいと思いますよ”などなど、

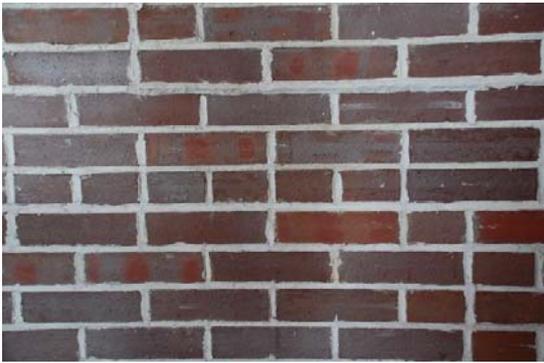
ごもともて御座います。

松田師匠の見習い？の自分としては、やり方を変更。

とりあえず、テープで養生して普通(平目地)でやってみる。



養生を剥がしてみると



思ったよりも直線が綺麗に出ていて、良い仕上がり。
最初からこうすれば良かった。(^_^)
ここまでは比較的簡単なのだ、問題はこれから。
如何にデマジット(造語)するかだ。
最後に砂漆喰を削るとなるとどうしても表面が荒れる。
表面の荒れたなまこ壁なんて見たことが無い。
どうやってあの【ツルツ】と感を出すのだろうか。
そんなことを考えながら、近くのホームセンターを徘徊していると、
こんなものを発見



凍結防止に水道管などに巻くものだ(正式名称は不明)
これを半分に切って、砂漆喰を流し入れ形作った所を【ベタツ】と張れないか？
こんなアイデアが浮かぶ。
試行錯誤なのである…。続く

2008.02.15 デマジ試行錯誤 続き

とりあえず、凍結防止帯を半分に切って砂漆喰を入れてみた。
いい感じで固まった所で【ピタツ】と付けるつもりであったが、
なかなか固まらない。
ペチカの側にでも置けば固まるかと思って試してみたが、
熱でちょっと溶けていた。(T_T)
それでも思い半乾きの砂漆喰を目地に付けてみる。
…しっとり感が既に無く、【ポロツ】と落下。
全くダメだ、ダメダメだ。

ここで素直には引き下がらない私。

次にホームセンターで目についたのが、これ。↓



新聞紙をまとめる時に使う、帯状のフィルム。

これをデメジを塗った後从上から手で押さえるのはどうだ！！



こんな感じでやってみた。

行き着くところは【指】、【感触】これしかないのだ！！

しかし何回かやってみたが、養生テープを10ミリで張ると、

テープにデメジが載ってしまい、テープをはがすときにデメジも一緒にはがれてしまう。デメジを10ミリにおさめるのは至難の業だ。

ここはすんなりと5ミリ程度、養生を上げる事にした。

デメジを塗りたくっては、フィルムを張って上からすりすり。

まあこんなもんだらう。

カオスからコスモスへ少しずつ秩序が出来てきたぞ！！

2008.02.20 Chaos から Harmony

調子よく中間部分を養生しながらデメジットしていたが、

低い部分はたぶん薪の一時保管場所になるだろうから、デメジは止める事にした。

1~7 段目までは平目地

8~14 段目までは養生をしたデメジ

15~26 段目までは書き殴ったようなデメジという風に何とも統一感のない仕上がりとなった。

アンバランスの中の調和(ハーモニー)って感じか。

何をもって美しいとするかは人それぞれだろうけど、

私はどちらかと言うと書き殴った風の所の方が好きかなあ。

正面から



台所側から



またすぐにカスタマイズするような気もするが、
今はこれ以上いじってもキリがないので、これでペチカは一応終了！

作品 ペチカ

題名 渾身の一滴(Chaos から Harmony へ)